

平成27年3月期 決算説明会

平成27年5月14日

 株式会社 **DTS**
DTS <http://www.dts.co.jp/>

I

平成27年3月期 実績

II

主要施策の状況

III

平成28年3月期 見通し

本資料についてのご注意

本資料に記載されている将来の売上高および利益などの予想数値は、業界の動向を含む経済情勢、お客様の動向など、現時点で入手可能な情報をもとにした見通しを前提としておりますが、これらは、種々の不確実な要因の影響を受けます。したがって、実際の売上高および利益などは、本資料に記載されている予想数値とは異なる場合がありますことをご承知おきください。

I . 平成27年3月期 実績

平成26年3月期からの変動要因

- ✓ 組込み分野の拡大を目的に、横河デジタルコンピュータとアートシステムの2社を新規連結
- ✓ DTS America Corporationを新規連結
- ✓ 単体に連結子会社のFAITECを吸収合併
- ✓ 単体から関西支社・中京支社の情報サービス事業を分社化し、DTS WESTを設立

平成27年3月期 連結・業績実績

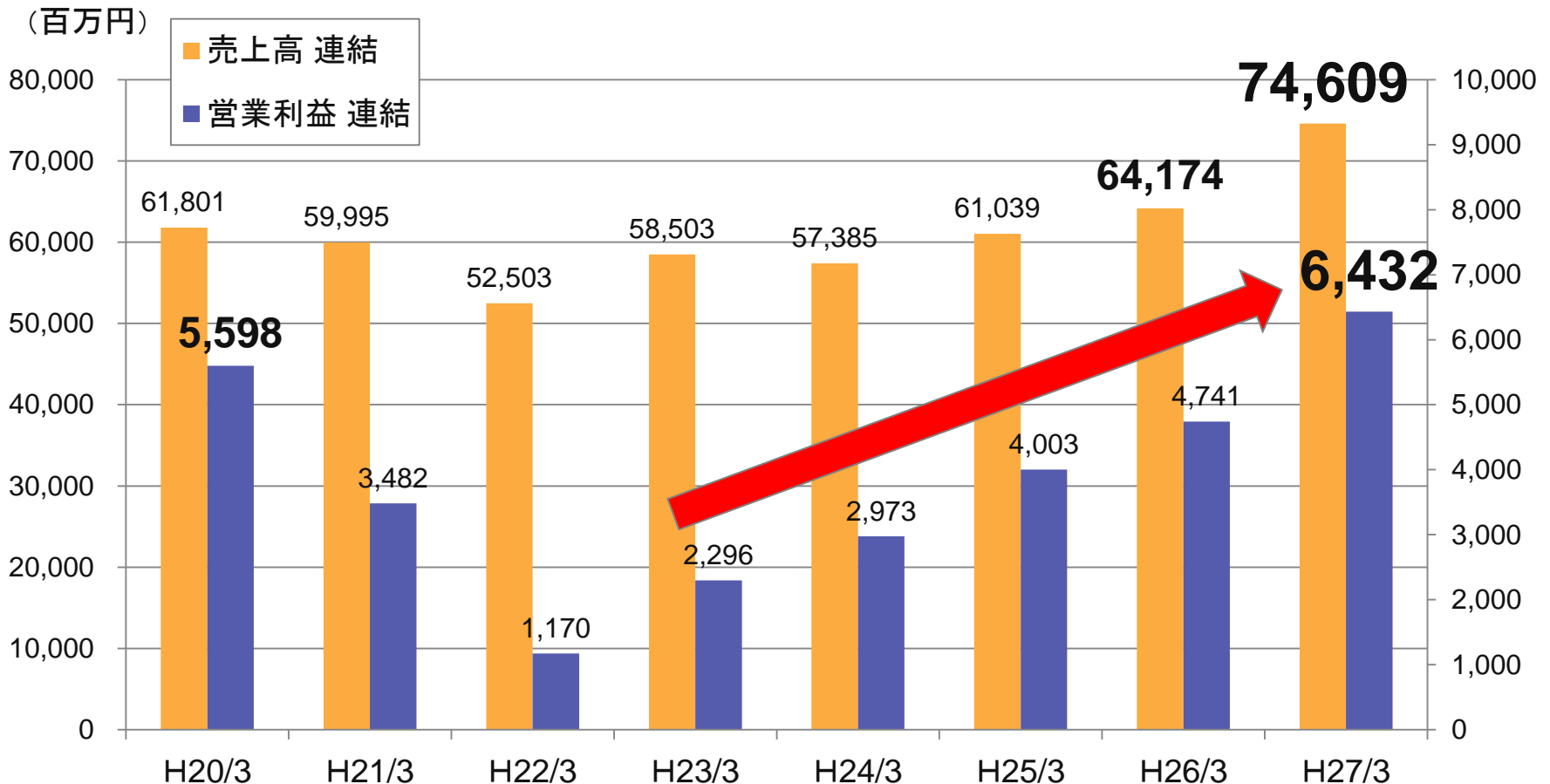


売上高は前年同期比16.3%増、営業利益は同35.7%増と大幅な増収増益となり、中計目標(720億)を1年前倒しで達成

(単位：百万円、%)	金額	売上比	前年同期比		計画比(11/5)	
売上高	74,609	—	116.3%	+10,434	103.6%	+2,609
売上総利益	13,173	17.7%	124.0%	+2,546	104.6%	+573
販管費	6,740	9.0%	114.5%	+855	96.3%	△259
営業利益	6,432	8.6%	135.7%	+1,690	114.9%	+832
経常利益	6,518	8.7%	135.5%	+1,707	115.4%	+868
当期純利益	3,692	4.9%	139.1%	+1,038	115.4%	+492

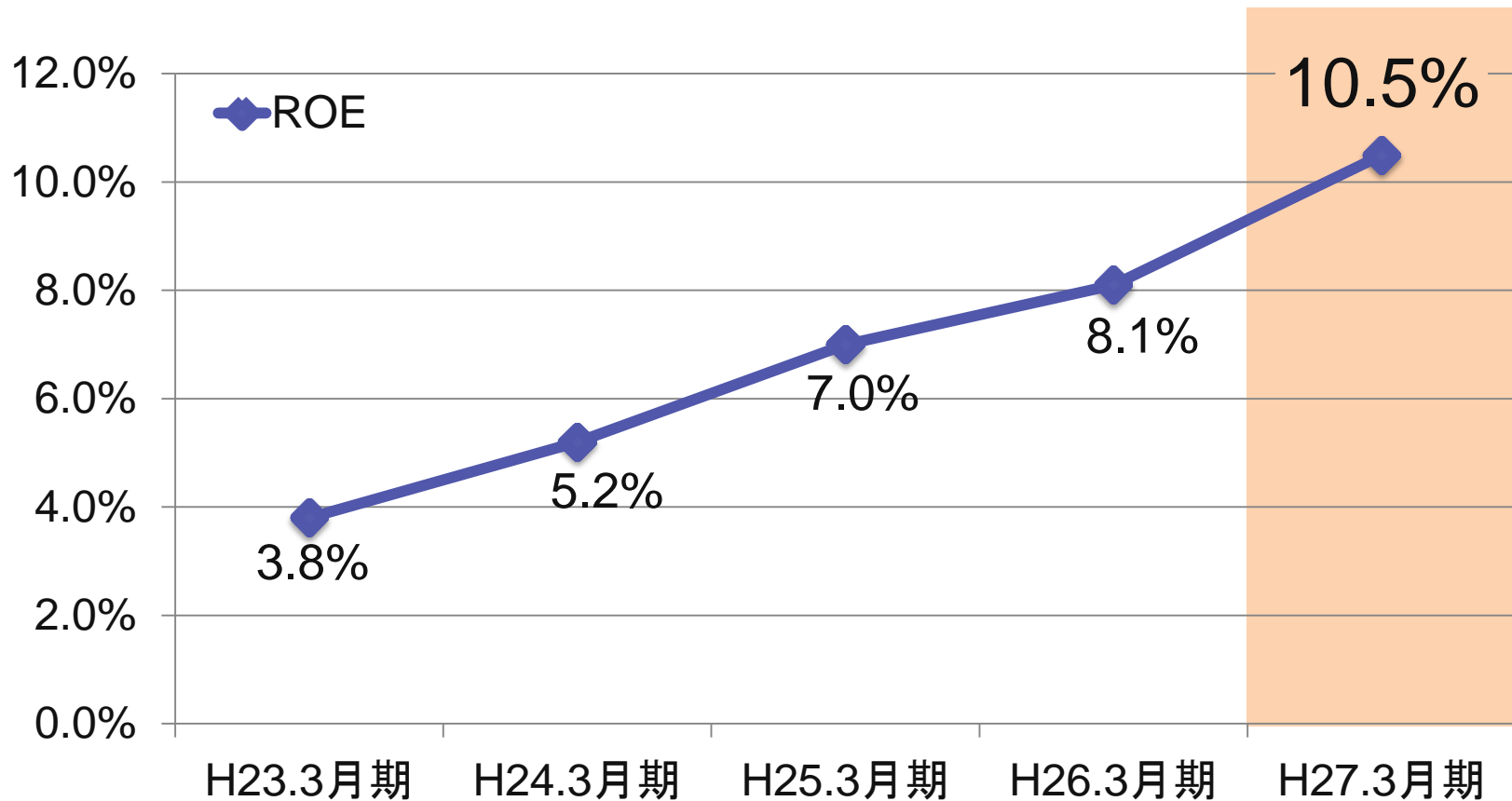
売上高・営業利益推移

連結売上高は、前期に引き続き過去最高を更新
営業利益額は、H20.3月期以来、7年ぶりに過去最高を更新



過去5年間のROE推移

ROEは継続的に向上し、平成27年3月期には10.5%を実現



連結・セグメント別売上高



売上高は、オペレーション、人材サービスが前期比減少したものの、システム、プロダクトその他がカバーし、前期比大幅増となった

(単位：百万円、%)	金額	売上比	前年同期比		主な増減要因
売上高	74,609	—	116.3%	+10,434	
システム	51,159	68.6%	125.0%	+10,230	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行、証券等の開発拡大 ・公共分野が好調に推移 ・新規連結
オペレーション	13,050	17.5%	98.8%	△159	
プロダクト その他	6,851	9.2%	116.4%	+964	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウド事業者向け機器販売が増加 ・WindowsOS更改特需
情報サービス	71,062	95.2%	118.4%	+11,036	
人材サービス	3,546	4.8%	85.5%	△602	

連結・売上高増加の要因



連結売上高の増加には、「金融、公共、サービス、製造を中心とする既存拡大」に加えて、「新規連結による増加」が寄与

	金額	前年同期比	
売上高	74,609	116.3%	+10,434
新規連結分を除く 売上高	70,397	109.7%	+6,222

前年同期比 プラス要因

■ 既存拡大: +69.9億

(システム+65.6億、プロダクト+4.3億)

- ・金融分野の拡大 +49.2億
- ・公共分野の拡大 + 7.4億
- ・サービス業の拡大 + 5.3億
- ・製造業の拡大 + 3.7億

■ 新規連結による増加: +42.0億

(システム+36.7億、プロダクト+5.3億)

- ・横河デジタルコンピュータ +31.2億
- ・アートシステム + 9.5億
- ・DTSアメリカ + 1.3億

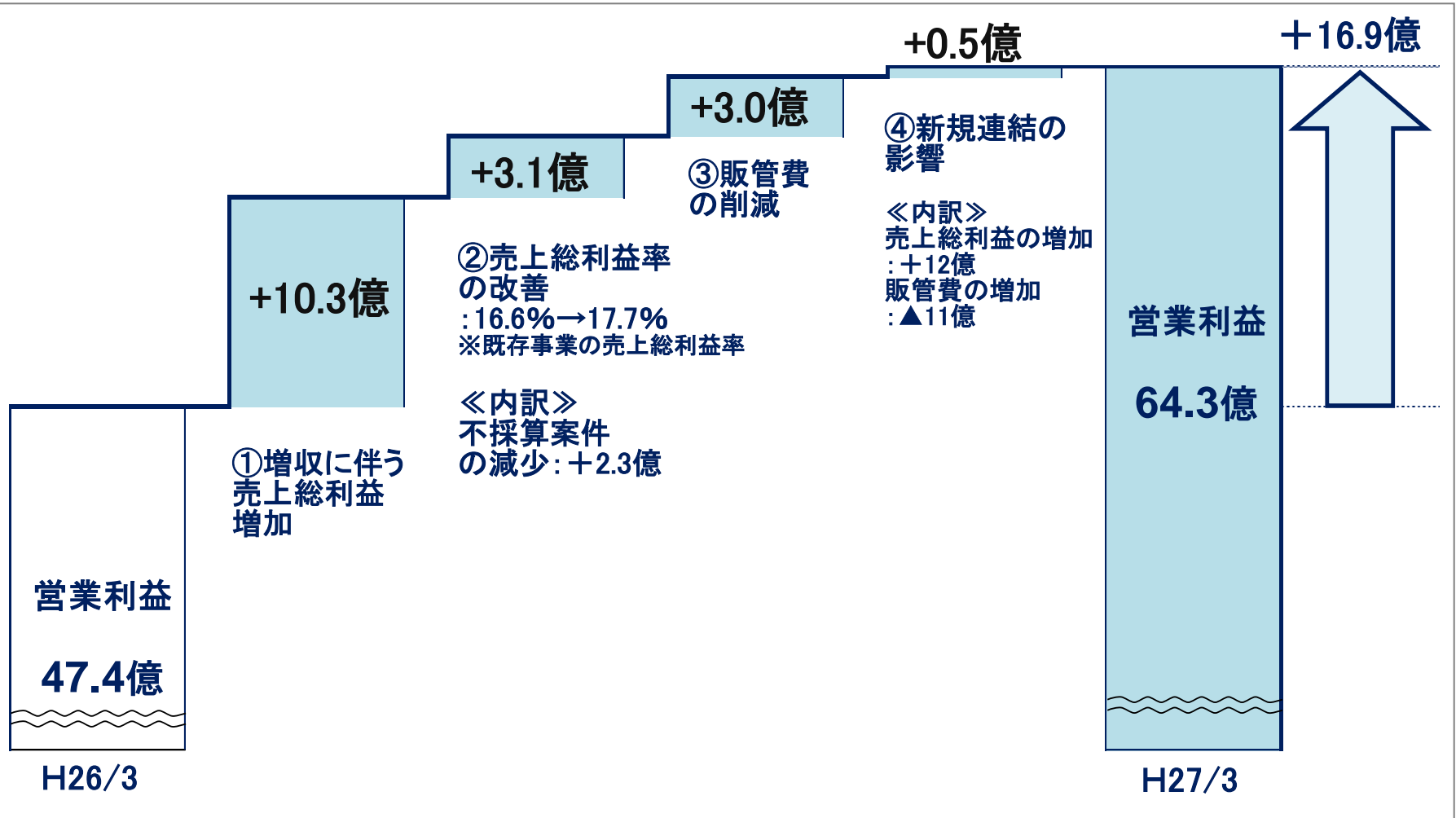
前年同期比 マイナス要因

■ オペレーションの減少: ▲1.6億

■ 人材サービスの減少: ▲6.0億

連結・営業利益増加の要因

売上高の増加や不採算案件の減少等による売上総利益の増加に加え、販管費の削減もあり、営業利益が増加



システムの受注高、受注残高が大幅に増加。金融大型案件やサービス・製造の開発案件の増加に加え、新規連結が寄与

単位(百万円、%)	受注高				受注残高			
	金額	構成比	前年同期比		金額	構成比	前年同期比	
合計	82,660	—	125.0%	+16,529	30,293	—	136.2%	+8,051
システム	58,700	71.0%	142.1%	+17,377	19,283	63.7%	164.2%	+7,540
オペレーション	13,708	16.6%	98.2%	△255	9,275	30.6%	107.6%	+657
プロダクト その他	6,764	8.2%	111.6%	+703	124	0.4%	58.7%	△87
情報サービス	79,172	95.8%	129.1%	+17,825	28,683	94.7%	139.4%	+8,110
人材サービス	3,488	4.2%	72.9%	△1,296	1,610	5.3%	96.5%	△58

平成27年3月期 単体・業績実績



売上高は前年同期比26.0%増、営業利益は同49.3%増となり、増収増益を達成

(単位：百万円、%)	金額	売上比	前年同期比		計画比(11/5)	
売上高	50,489	—	126.0%	+10,418	105.2%	+2,489
売上総利益	9,095	18.0%	128.5%	+2,018	106.4%	+545
販管費	3,650	7.2%	106.4%	+219	96.1%	△149
営業利益	5,445	10.8%	149.3%	+1,798	114.6%	+695
経常利益	5,611	11.1%	146.5%	+1,781	115.7%	+761
四半期純利益	4,745	9.4%	206.0%	+2,442	113.0%	+545

単体・セグメント別売上高

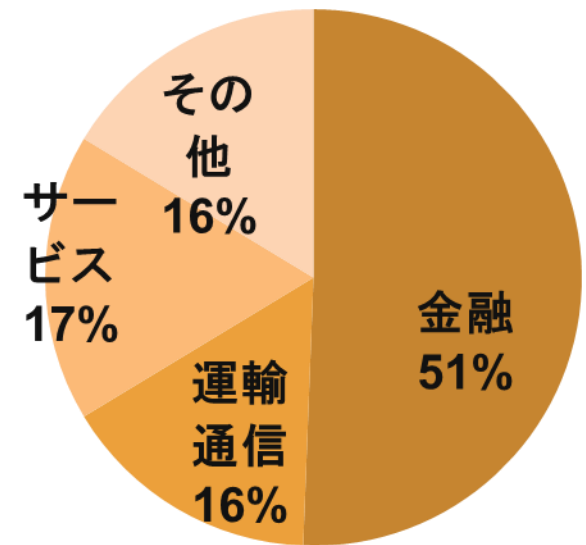
金融分野を中心に開発案件が好調に推移したことに加え、
連結子会社の吸収合併により、システムが大幅に増加

(単位：百万円、%)	金額	売上比	前年同期比		主な増減要因
売上高	50,489	—	126.0%	+10,418	
システム	38,557	76.4%	136.5%	+10,312	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行、証券等の開発拡大 ・公共分野が好調に推移 ・FAITEC吸収合併
オペレーション	10,695	21.2%	98.1%	△210	
プロダクト その他	1,236	2.4%	134.4%	+316	・WindowsOS更改特需
情報サービス	50,489	100.0%	126.0%	+10,418	
人材サービス	—	—	—	—	

単体・エンドユーザ業種別売上高

金融は大型案件の拡大や連結子会社の吸収合併により大幅増。
 運輸・通信は減少するも、公共、サービスは増加

(単位:百万円、%)	金額	構成比	前年同期比	
金融	24,928	50.6%	166.0%	+9,912
運輸・通信	7,744	15.7%	92.0%	△671
サービス	8,527	17.3%	103.8%	+314
その他	8,052	16.3%	107.3%	+546
うち製造	3,411	6.9%	102.5%	+82
うち公共	1,859	3.8%	135.8%	+490
うち卸小売	1,269	2.6%	105.4%	+64
システム+オペレーション	49,253	100.0%	125.8%	+10,102



- 金融業 : 銀行の大規模システム統合などが拡大。証券の開発案件も好調に推移
- 運輸・通信業 : 通信は主要顧客の投資抑制により縮小するが、運輸は更改需要により増加
- サービス業 : 新規顧客獲得などにより、堅調に推移
- その他 : 公共は、年金一元化や地方自治体のシステム更改などの新規案件を獲得し増加

グループ会社・業績実績



5社が増収増益を達成し、連結売上高、営業利益の向上に貢献

社名	売上高			営業利益			
	金額	前年同期比	計画比	金額	売上比	前年同期比	計画比
データリンクス	7,616	97.0%	99.3%	274	3.6%	100.6%	105.6%
デジタルテクノロジー 増収増益	6,766	103.8%	99.0%	94	1.4%	142.1%	88.9%
日本SE	4,496	103.3%	96.2%	263	5.9%	93.9%	85.1%
横河デジタルコンピュータ*	3,120	—	95.2%	103	3.3%	—	98.9%
九州DTS 増収増益	1,539	142.1%	118.4%	128	8.4%	255.3%	198.0%
総合システムサービス 増収増益	1,484	121.8%	109.9%	155	10.5%	156.0%	109.3%
DTS WEST*	1,178	—	94.3%	80	6.8%	—	76.3%
アートシステム*	953	—	104.8%	64	6.7%	—	99.2%
MIRUCA 増収増益	419	117.8%	100.5%	57	13.8%	254.8%	124.7%
DTS上海 増収増益	380	119.1%	111.3%	102	27.0%	[+105]	219.6%
DTSアメリカ*	137	—	86.9%	23	17.0%	—	83.2%

※各社単体の数値であり、すべてを合計しても連結の数値とは一致しません

※[]は、当期金額－前期金額です

※*は、平成27年3月期から連結

グループ会社・営業利益率改善状況



グループ各社とも営業利益率が大幅改善。5%以上が8社に拡大

社名	営業利益率 (H27.3月期)	営業利益率 (H26.3月期)	前年同期比
データリンクス	3.6%	3.5%	+0.1pt
デジタルテクノロジー	1.4%	1.0%	+0.4pt
日本SE	5.9%	6.5%	△0.6pt
横河デジタルコンピュータ	3.3%	0.9%	(参考)+2.4pt
総合システムサービス	10.5%	8.2%	+2.3pt
九州DTS	8.4%	4.7%	+3.7pt
DTS WEST	6.8%	5.6%	(参考)+1.2pt
アートシステム	6.7%	4.7%	(参考)+2.0pt
MIRUCA	13.8%	6.4%	+7.4pt
DTS上海	27.0%	[△3]	—
DTSアメリカ	17.0%	10.0%	(参考)+7.0pt

Ⅱ. 主要施策の状況

① 提案力の強化

- ・営業体制の強化
- ・グループ連携による営業力の強化

② 事業基盤の強化とビジネスモデルの変革

- ・金融・通信に続く、第三の柱の創出
- ・グローバルビジネス基盤の確立
- ・新規企画型ビジネスの創出
- ・プロジェクトの確実な利益確保

③ グループ経営基盤の拡充

- ・高付加価値人材の育成
- ・グループ再編による経営最適化

中計の財務目標は前倒しで達成したが、施策面では進捗途上のものもある為、平成28年3月期もこれらの施策は継続して推進する。

①提案力の強化

営業体制の強化やグループ連携等の施策が寄与し、受注は増加。顧客拡大に向け、新規顧客に対する提案を強力に推進する。

■営業体制の強化

- 「営業戦略会議」の改革により、アカウントプランが充実し、「顧客の見える化」が進行。営業担当者の責任数値を明確にするKPIを設け、受注増加につながる
- 顧客満足度調査の拡充に伴い、収集できる顧客情報が充実。現場へのフィードバックも強化

■グループ連携による営業力の強化

- 新規連結2社との情報連携により、顧客情報・営業情報の共有を促進。新たな市場の開拓を推進

②事業基盤の強化とビジネスモデルの変革



グローバルビジネス基盤の確立に向け、ベトナム拠点活用を推進。
プロジェクト管理強化により、引き続き不採算案件の発生を抑止。
次なる成長にむけた新規ビジネス創出に継続して取り組む。

第三の柱の創出

- ・組込み分野において横河デジタルコンピュータ、アートシステムの2社を新規連結。「医療」「車載」を中心に事業拡大を目指す
- ・平成27年4月にDTSの組込み関連事業の一部をアートシステムに承継。顧客基盤やノウハウ等を集約し、シナジー創出を目指す

グローバルビジネス基盤の確立

- ・平成26年4月にベトナムにオフショア・BPO拠点となる現地法人を設立
- ・システム開発体制とコスト競争力を強化するとともに、東南アジアにおける現地ビジネスの開拓を推進

プロジェクトの確実な利益確保

- ・プロジェクト管理強化への取組みを着実に推進。不採算案件の減少、利益確保につながる
- ・生産性の向上、競争力強化に向け、開発、運用における自動化の取組みを本格化。
- ・外注先確保に向けた施策として、東北でのニアショア開発を開始。地域経済に貢献。

新規企画型ビジネスの創出

- ・畜産分野のソリューション「Dr.Cowbell」を事業化
- ・医療やビッグデータ、ソーシャルネットワークの分野において、実用化に向けた取組みを推進
- ・新規顧客の獲得に向け、地方自治体の案件を受注。

③グループ経営基盤の拡充

高付加価値人材の育成、経営最適化に向けた施策を推進。経営効率向上や競争力強化に向け、さらなるグループ再編に取り組む

■高付加価値人材の育成

- 高度技術者、営業ロールモデル人材、グローバル人材育成研修を継続的に実施







■グループ再編による経営最適化

- グループ各社の営業利益率向上に向けた構造改革を推進
- 平成27年4月に、関西を拠点とする「DTS WEST」と「総合システムサービス」を合併。西日本地域における事業拡大を目指す
- 平成27年4月に、DTSの組込み関連事業の一部を「アートシステム」に承継。顧客基盤やノウハウを集約し、組込み関連事業の拡大を目指す

Ⅲ. 平成28年3月期 通期見通し

当社グループ事業環境の見通し

平成28年3月期は、金融大型案件のピークアウトや通信投資抑制という厳しい条件下における事業運営が想定される。

業種	IT投資の見通し	
金融	銀行は、大規模案件のピークアウトにより、下期～来期にかけ減少。生損保は、堅調な推移を見込む。 証券は、顧客の業績改善により引き続き需要増を想定。	 / 
運輸・通信	通信は、主要キャリアの投資抑制傾向が続くものと見込む。	
	運輸は、空運で引き続き基幹システムの更改需要を見込む。	
サービス	企業業績の改善に伴い、幅広い顧客において需要拡大を見込む。	
その他	公共は、年金一元化やマイナンバーなどにおいて、引き続き需要増。製造は、組込み事業において、車載、医療等の需要拡大を見込む。卸小売は、ビッグデータ等を使った新サービスに向けた投資に期待。	

平成28年3月期 上期業績予想



大型案件の継続が見込まれる上期の業績予想は、
売上高は連結で8.1%増、単体で11.4%増の業績予想とする。

(単位：百万円、%)	連結				単体			
	金額	売上比	前年同期比		金額	売上比	前年同期比	
売上高	38,000	—	108.1%	+2,862	25,500	—	111.4%	+2,615
売上総利益	6,700	17.6%	111.1%	+670	4,600	18.0%	112.4%	+509
販管費	3,600	9.5%	107.2%	+240	1,950	7.6%	111.6%	+202
営業利益	3,100	8.2%	116.1%	+430	2,650	10.4%	113.1%	+306
経常利益	3,150	8.3%	116.0%	+433	2,700	10.6%	111.5%	+277
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,400	6.3%	159.9%	+898	2,250	8.8%	80.4%	△549

平成28年3月期 通期業績予想

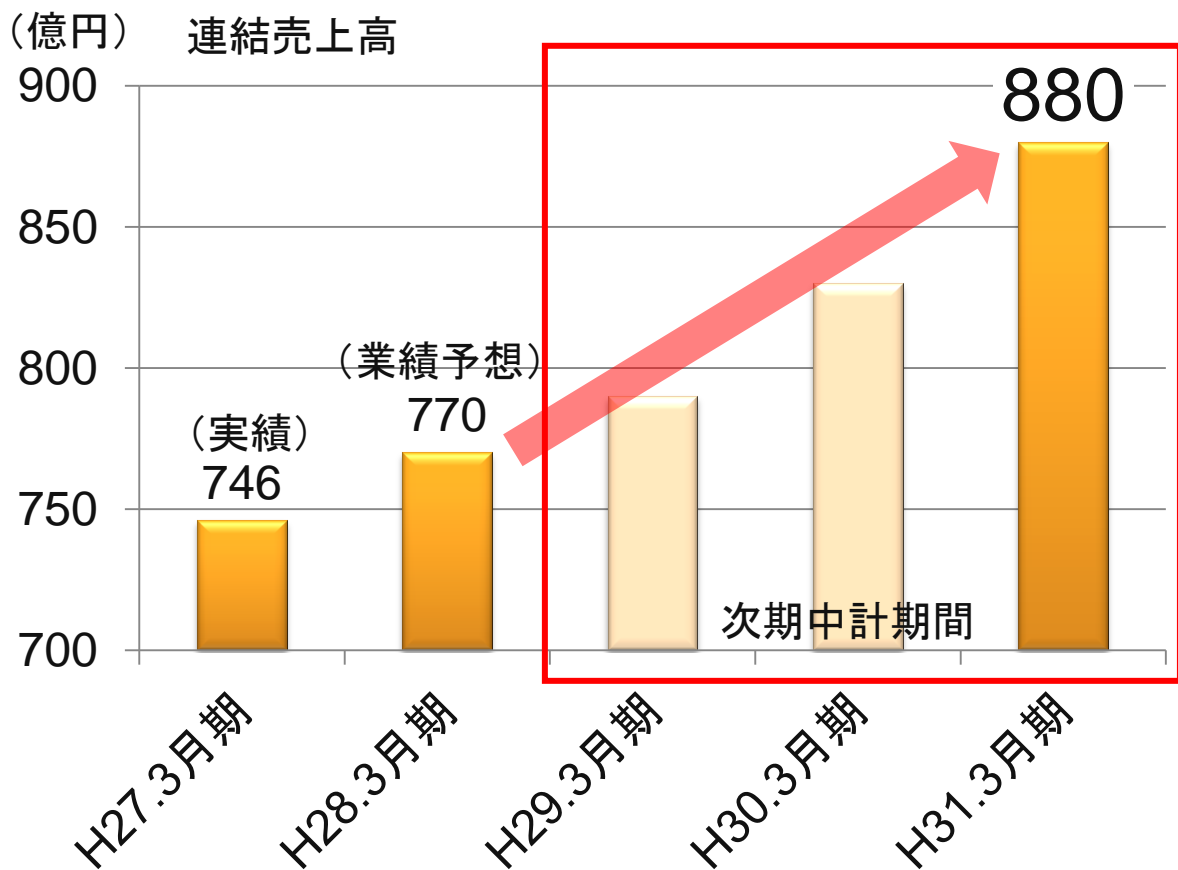


金融大型案件ピークアウトや、通信投資抑制等の厳しい環境下、他の分野の拡大成長により通期では3.2%の成長を目標とし、次期中期経営計画(H28.4～)に向けた地盤固めを推進する。

(単位：百万円、%)	連結				単体			
	金額	売上比	前年同期比		金額	売上比	前年同期比	
売上高	77,000	—	103.2%	+2,390	52,000	—	103.0%	+1,510
売上総利益	14,000	18.2%	106.3%	+826	9,600	18.5%	105.5%	+504
販管費	7,300	9.5%	108.3%	+559	4,000	7.7%	109.6%	+349
営業利益	6,700	8.7%	104.2%	+267	5,600	10.8%	102.8%	+154
経常利益	6,750	8.8%	103.6%	+231	5,650	10.9%	100.7%	+38
親会社株主に帰属する当期純利益	4,550	5.9%	123.2%	+857	4,150	8.0%	87.4%	△595

次期中期経営計画に向けて

平成29年3月期から始まる次期中期経営計画(※)は、当社の50期売上高1000億円の実現に向けた正念場となる期間であり、引き続き自律的成長を目指す。



次期中計の目標(案)

- ・連結売上高
880億以上
- ・営業利益
77.5億以上
- ・営業利益率
8.8%以上
- ・ROE
10%以上継続

(※) 中期経営計画の具体的な内容については平成27年11月に発表を予定。

当期業績が計画を上回ったことから、平成27年3月期 期末配当は直近予想から10円増配。

また、平成28年3月期は5円増配し、年間55円を予定。
今後も安定した配当を継続的に行う。

	第2四半期末	期末	年間	配当性向 (連結)
平成27年3月期 (カッコ内は直近予想)	15円	35円 (25円)	50円 (40円)	31.9% (29.4%)
平成28年3月期 (予想)	20円	35円	55円	28.4%

平成27年3月期
決算説明会

ご清聴ありがとうございました

 株式会社 **DTS**
DTS <http://www.dts.co.jp/>